



2015年6月28日発行

立野ダムによらない自然と生活を守る会 代表 中島康 熊本市西区島崎4丁目5-13

## 阿蘇火山と立野ダム 須藤靖明さんが講演



須藤靖明さんの講演 2015.2.28撮影

阿蘇の火山活動が立野ダム建設に与える影響を考える学習会を、2月28日に県民交流館パレア（熊本市）で開催しました。約80人が参加した会場は、立ち見が出るほどの盛況でした。

阿蘇火山博物館学術顧問の須藤靖明さんが講演し、活断層の存在や立野ダムが火山灰の流下を阻害し、埋まってしまう可能性を指摘しました。

須藤さんは、阿蘇周辺でここ十数年間に起きた地震データを提示。「発生場所はカルデラを貫く活断層と重なる。ダム建設用道路沿いでも、断層が確認されている」と説明しました。

立野ダムの本体下部に放流用の穴（幅5m×高さ5m）が3ヶ所設けられる点について、「阿蘇の火山活動は活発化しており、爆発すれば数百万トンの火山灰を噴出する。5m四方の穴から多量の火山灰が下流に流れるだろうか」と疑問を投げかけました。

また、阿蘇カルデラが形成された当初は、現在（南北25km、東西20km）よりも5kmほど小さく、外輪山が浸食されてカルデラが大きくなったこと。阿蘇谷（カルデラの北）はまだ外輪山の斜面が切り立っており、今後も斜面が崩れながらカルデラが拡大していくこと。ゆえに土砂災害が起こりやすいこと。

地殻の動きで別府から熊本市、島原に続く大地溝帯ができ、マグマができやすくなって阿蘇火山、そして阿蘇カルデラが生まれたこと。大分熊本構造線と呼ばれる断層で外輪山が立野で沈んで、立野火口瀬ができたこと。外輪山が立野で切れて白川ができたのは9万年ほど前のことで、熊本市はその時の土石流の上にあること。阿蘇の火山灰が有明海に流れ込み、有明海の干潟や濁りを生み、そのことが生物の多様性を作り上げていることなど、非常に興味深い話を聞くことができました。

このような地殻活動が活発な場所に立野ダムをつくってはならないと、改めて感じました。

## ●立野ダムをめぐる動き 2015年2月～6月

- 2月28日 緊急学習会「阿蘇火山と立野ダム」 80名参加（熊本市パレア）
- 3月14日 映画「ダムネーション」上映会 50名参加（熊本市パレア）
- 4月19日 勤労協の立野ダム現地見学
- 5月10日 「健康まつり」（江津湖で開催）でビラ配り  
かんくま学習会「立野ダム、荒瀬ダムの事例から」で立野ダム問題講演
- 5月19日 白川改修・立野ダム建設期成会（熊本市、菊陽町、大津町、南阿蘇村）の総会
- 5月23日 ストップ立野ダム署名活動（熊本市下通り）
- 6月5日 高森町にて立野ダム問題学習会
- 6月25日 国交省の学識者懇談会が立野ダム事業の継続を了承したことに対し抗議文提出

## 火山地帯に立野ダムをつくって安全か？

なぜ、阿蘇外輪山は立野で切れたのでしょうか。九州の地殻は、別府から島原に続く「大分熊本構造線」で、北部九州は北に、南部九州は南に移動しています。そこには別府島原地溝が存在します。その地溝には阿蘇の火山灰が降り積もっているのです、今は目立ちません。

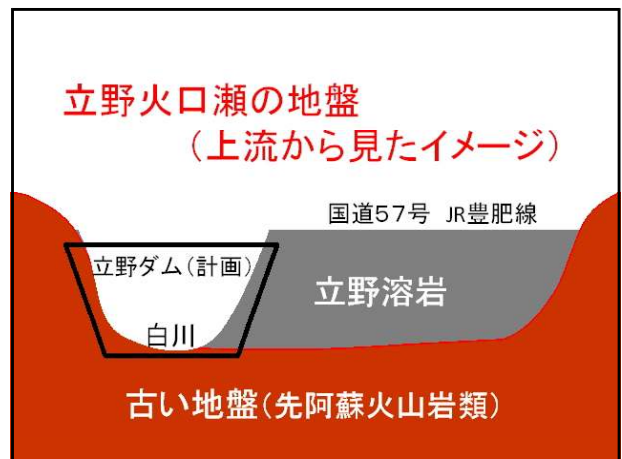
その大分熊本構造線と呼ばれる断層で外輪山が立野で沈んで、立野火口瀬（阿蘇外輪山の切れ目）ができたのです。この50年間に、北部九州は北西へ、南部九州は南西に、それぞれ1mほど移動しています（熊本日日新聞社発行「新・阿蘇学」参照）。ということは、立野ダム建設後、ダムと地盤の間に隙間が生じることが十分に考えられます。

立野火口瀬はその後、阿蘇火山の溶岩で何度もうずまっては浸食され、現在の立野峡谷ができました。立野ダム本体予定地右岸の地盤は、阿蘇火山から流下してきた立野溶岩です。溶岩が冷える時に生じた「柱状節理」と呼ばれる割れ目だらけの溶岩が、何層にも堆積しています。一方左岸は、右岸よりずっと古い先阿蘇火山岩類による地盤です。

立野峡谷一帯には、北向山断層と呼ばれる落差200mもの活断層をはじめ、多くの断層が集中しています。立野ダムの完成後に断層が動いて、ダムの右岸と左岸で地盤が違う動きをした場合は一体どうなるのでしょうか。火山地帯に巨大なコンクリートのダムをつくって安全なのか、国土交通省は自信を持って説明できるのでしょうか。

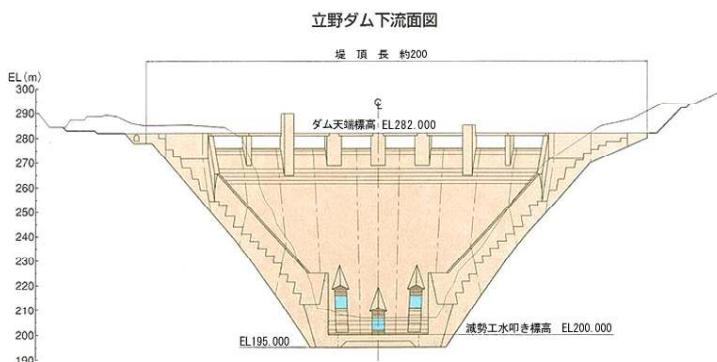


九州の地殻は南北に移動している  
熊本日日新聞社発行「新・阿蘇学」より

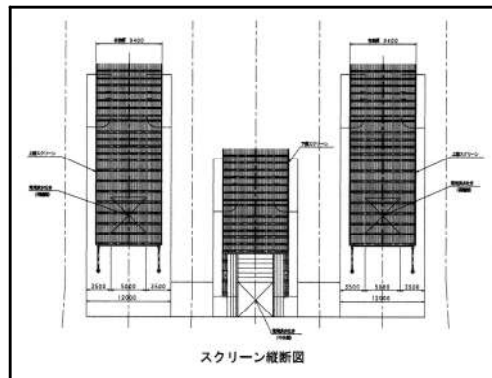


地殻の動きで外輪山が落ち込んでできた立野火口瀬  
ダム本体の右岸と左岸では地盤が全く違う

# 立野ダムは災害を引き起こす ～洪水時、立野ダムの穴は流木でふさががる！



ダム下部に3つの穴が開いている立野ダム。  
ダム上部にはダムが満水になった時に洪水を下流に流す  
非常放水用の大きな穴が8つ開いている(国交省資料より)



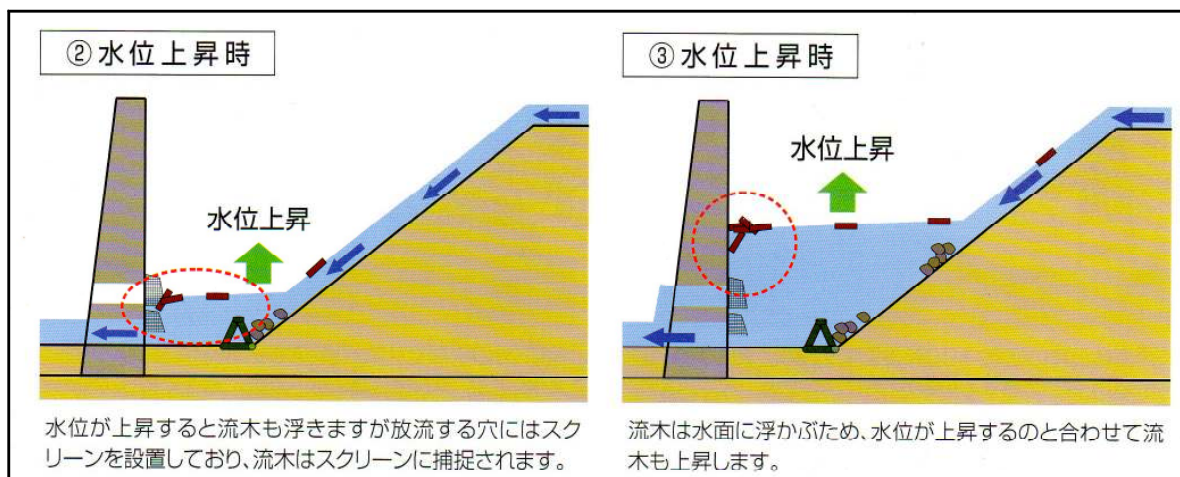
立野ダムの3つの穴の上流側を覆う  
すき間20cmのスクリーン(国交省資料より)

ダムのゲート（水門）の幅は40mと構造令で決められています。流木等でダムのゲートがふさががる可能性があるからです。洪水調節専用の「穴あきダム」である立野ダムにはゲートがない代わりに、ダムの下部に3つの穴（高さ5m×幅5m）があいています。幅5mしかない穴が、洪水時に流木等でふさががることは明らかです。穴がふさがると、立野ダムは洪水調節不能の危険な状態となります。ダムが満水となる時点で、ダム上部の非常放水用の8つの大きな穴から洪水がそのまま流れ落ち、ダム下流の洪水流量はゼロから最大量に一気に上昇します。

国土交通省は流木対策として、立野ダムの穴の上流側をすき間20cmのスクリーンで覆うとしています。しかし、大量の流木や岩石等がひっきりなしに流れる洪水時の白川の状況を考えると、スクリーンはたちまち流木等でふさがってしまうと容易に想像できます。

ところが国土交通省は、「スクリーンにはりついた流木は、ダムの水位が上昇すると浮き上がる」とホームページで主張しています。流木を穴が吸い込む力は、流木の浮力よりもはるかに大きいのは明らかです。国土交通省の主張は、あり得ないことです。

立野ダムの穴が流木等でふさがった状態で、ダムに水がたまってしまった場合、流木の撤去は不可能です。洪水時、立野ダムは機能しないどころか、大きな災害源となるのは明らかです。



「ダムの穴をふさぐ流木がダムの水位が上がると浮いてくる」と主張する国交省資料(ホームページより)

# 工事が進む阿蘇黒川の遊水地

3年前の九州北部豪雨で、阿蘇は甚大な被害を受け、黒川はほとんどの個所であふれました。現在阿蘇では河川改修や遊水地の建設が進められており、先日状況を見てきました。立野ダムをつくり、もし効果があったと仮定しても、阿蘇には何のメリットもありません。阿蘇で遊水地をつくるなどの治水対策をとれば、阿蘇のためにも、熊本市など下流のためにもなります。

阿蘇・内牧の少し上流の小倉遊水地は、すでに工事が始まっていました。「地役権」を導入した遊水地で、普段は農地として活用し、洪水の時には遊水地となり、農家は補償を受けられます。優良農地を大きく消失することなく、用地費の大幅な縮減にもつながる、とてもよい治水対策です。

驚くのが、毎秒 140 トンの洪水調節能力があることです。立野ダムの洪水調節能力（毎秒 200 トン）に匹敵する能力です。「地役権」遊水地は、少し上流の手野にも計画されています。遊水地の整備を進めれば、立野ダムは不要となるのです。



小倉遊水地(普段は水田)を囲む堤防  
2015.6.6撮影

## ●住民の声を歪曲するな！国交省に抗議文提出



国と県に抗議文提出 2015.6.25撮影

「国交省の学識者懇談会は立野ダム建設事業の継続を了承した」と報道されました。その中で、国交省は学識者に「早期完成を望む声も強い」と説明している点を、「ダムによらない治水・利水を考える県議の会」「立野ダムによらない白川の治水を考える熊本市議の会」とともに国や県に6月25日に抗議しました。

2012年9月に開かれた立野ダム公聴会では、熊本市、大津町、南阿蘇村の3会場で流域住民30人が発言し、全員が立野ダム建設反対意見を述べ、立野ダムをつくってほしいという意見を述べた人は1人もいませんでした。

対応した国交省の担当者に意見を求めても、相変わらずの「上司に伝える」の一点張りでした。また、これまで何度も要請してきた住民に対するダム説明会開催を重ねて要望しました。

**編集後記** 私たちの会も結成3周年を迎え、会報10号を発行することができました。結成直後の九州北部豪雨では、被害を受けた箇所は未改修の箇所ばかりでした。その後、白川の河川改修は急ピッチで進んでいます。災害を防ぐには、ダムより河川改修です。◇先日訪れた、国交省の立野ダム工事事務所のロビーで驚いたのは、当然置いてあるはずの立野ダムの宣伝ビラや資料が全く置いてないことでした。以前は置いてあった立野ダムの模型も「廃棄した」そうです。国交省は、よほど立野ダムを説明する自信がないとしか考えられません。◇立野ダムは災害を引き起こします。どこにでも出かけて説明しますので、ミニ学習会やミニ集会の開催にご協力ください。7月12日の集会にもぜひご参加ください。(N.O.)